フィールドワーク部「日本と世界が出会うまち・堺 2019」研究発表会で中高ダブル受賞

11 月 17 日(日)に堺市立東文化センター大ホールで開催された堺市博物館・大阪大学歴史教育研究会主催の「日本と世界が出会うまち・堺 2019」研究発表会にフィールドワーク部から高等部 1 チーム・中等部 2 チームが出場し、中等部チームの 1 つが最優秀賞(ルソン助左衛門賞・1 位)、高等部チームが優秀賞(2 位)をいただきました。

フィールドワーク部からエントリーした各チームの発表タイトルと、メンバーは以下です。

中学生の部・最優秀賞(ルソン助左衛門賞)
タイトル：酒造業界の革命家「鳥井駒吉」
～駒吉の目に映った世界市場～
3 年　山本佳歩
2 年　立田優和　森慶太
1 年　大矢朋美　沖谷実奈
以上 5 名

中等部　鉄道班
タイトル：阪堺鉄道の初期機関車の
来歴とゆくえ
～黎明期・南海鉄道の
知られざる歴史～
2 年　下園達久　北野求
1 年　林愛子
以上 3 名

高校生の部・優秀賞
高等部　歴史班
タイトル：堺の中心で丁珪を叫ぶ
1年　福井砂緒　小林紫子
菊元真魚　坂本紫音
以上 4 名

中学生の部・最優秀賞をいただいた中等部･鳥井駒吉班は､堺の酒造業に革新をもたらし､アサヒビールの創始者としてビールの国産化を成し遂げた鳥井駒吉について、ゆかりの地のフィールドワークを重ね､曾孫の洋さんら縁者へのインタビューやアサヒビール吹田工場でのインタビューなどの取材を元に丁寧に業績を追いかけ、世界市場を視野に入れたこの人物の革新性を浮き彫りにした発表を行いました。近代日本において多彩な活躍した堺出身の人物の足跡をたどり、特に酒造業において堺から日本へ、さらに世界に視野を広げた人物を通じた精緻な産業史研究であったと高い評価をしていただきました。

中学生の部・鉄道班の発表は、南海電鉄の前身となる鉄道が多くある中で､大阪市内と堺市を結んだ阪堺鐵道に着目し､最初に導入されたイギリス製とドイツ製の蒸気機関車の来歴と役目を終えたあとにどこへ払い下げられたのかを追跡調査し発表しました。また、当時は客車だけでなく貨物も運んでいたこともつきとめ､当時何を運んでいたのかについて調査した結果についても報告しました｡残念ながら受賞には至りませんでしたが､鉄道ファンでもある審査委員長の桃木至朗先生から、ほとんどの人が知らない鉄道史をよく調べていてよい発表だったとお褒めの言葉をいただきました。

高校の部・優秀賞をいただいた歴史班は、部活動で継続してきた日本のキリシタンについての研究を踏まえ､フランシスコ=ザビエルが堺を訪れたときに自宅へ迎え入れたことで知られるキリシタンの豪商･日比屋了珪について､その家族についてやキリシタンになった経緯と家族を巡る事件を追跡したことを発表しました。

日比屋了珪についてはほとんど史料が残っていない中､先行研究やわずかな手がかりから系図を作成し仮説を立てて判明したことを論じるというオーソドックスな研究スタイルが貫かれていることが高く評価されました。

中等部最優秀賞のメンバー記念撮影

高等部優秀賞のメンバー記念撮影

フィールドワーク部は本大会に 6 年連続で出場し、その間に最優秀賞 4 回・優秀賞 3 回・堺ユネスコ協会賞 1 回と途切れることなく入賞を続けています。今やこの大会における入賞常連校として知られるようになってきました。部員たちは、今年度の発表成果を踏まえて、来年の発表に向けて始動しています。

今後も当部活動では、先輩から後輩へとノウハウを受け継ぎ、実地調査＝フィールドワークでの成果と文献による研究、そしてプレゼンテーション能力を高めていく活動を行っていきます。